

特別支援教育	単位数 時間数	2単位 22.5時間
〔教員〕： 松村 齋		
【授業概要】 教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。		
【到達目標】 1. 【知識・理解】特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。 2. 【思考・判断・表現】支援者としての考え方と役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。 3. 【技能】幼児児童生徒一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。 4. 【関心・意欲・態度】連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。		
【成績評価と割合】 方法：授業毎の振り返り・レポート・筆記試験 項目と割合：授業態度（20%）レポート（30%）筆記試験（50%）の合計（100%）で評価します。 その他：3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。		
【内容】		
第1週： 特別支援教育の現状	1.5時間	実務家
第2週： 視覚障害児の理解	1.5時間	実務家
第3週： 聴覚障害児の理解	1.5時間	実務家
第4週： 知的障害児の理解	1.5時間	実務家
第5週： 肢体不自由児の理解	1.5時間	実務家
第6週： 病弱児の理解病弱の理解	1.5時間	実務家
第7週： 重複障害児の理解	1.5時間	実務家
第8週： LD児の理解	1.5時間	実務家
第9週： ADHD児の理解	1.5時間	実務家
第10週： 自閉症児の理解	1.5時間	実務家
第11週： 情緒障害児の理解	1.5時間	実務家
第12週： 特別支援学校の教育の実際	1.5時間	実務家
第13週： 特別支援学級の教育の実際	1.5時間	実務家
第14週： 通級による指導の実際	1.5時間	実務家
第15週： 小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際	1.5時間	実務家
	22.5時間	

特別支援教育研究	単位数 時間数	2単位 22.5時間	
〔教員〕： 上杉 晴美・中野 たみ子			
【授業概要】 特別支援教育研究は、特別支援教育での学びを踏まえ、1人ひとりの子どもの教育的ニーズを確かめ、そのニーズに沿う保育・教育を展開していくための考え方や手立てについて学びます。			
【到達目標】 1. 【知識・理解】子どもの発達や障がい特性についての理解と援助の方法について知る。 2. 【思考・判断・表現】1人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのニーズに合った保育・教育について考える。 3. 【技能】子どもの発達や障がい特性のアセスメントについて学ぶ。 4. 【関心・意欲・態度】子どもの発達や教育的ニーズに対する支援についてまとめたり、発表したりすることができる。			
【成績評価と割合】 ・授業の参加意欲・受講態度 15点。 ・ワークシート 45点。 ・期末試験 40点。			
【内容】			
第1週： 講義のオリエンテーション	上杉	1.5時間	実務家
第2週： 「特別支援教育」について考える。	上杉	1.5時間	実務家
第3週： 乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて(1)	上杉	1.5時間	実務家
第4週： 乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて(2)	上杉	1.5時間	実務家
第5週： 乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて(3)	中野	1.5時間	実務家
第6週： 自閉症スペクトラムへの支援について学ぶ(1)	中野	1.5時間	実務家
第7週： 自閉症スペクトラムへの支援について学ぶ(2)	上杉	1.5時間	実務家
第8週： 学習障がい(LD)への支援について学ぶ(1)	上杉	1.5時間	実務家
第9週： 学習障がい(LD)への支援について学ぶ(2)	上杉	1.5時間	実務家
第10週： ADHDへの支援について学ぶ	上杉	1.5時間	実務家
第11週： 協調運動障がい(不器用)の特性理解と保育での配慮について学ぶ	上杉	1.5時間	実務家
第12週： ケーススタディについて学ぶ	上杉	1.5時間	実務家
第13週： 家庭・保護者との連携について学ぶ。	上杉	1.5時間	実務家
第14週： 保育所・幼稚園・小中学校などでの支援体制について学ぶ。	上杉	1.5時間	実務家
第15週： まとめ 特別支援教育再考	上杉	1.5時間	実務家
	22.5時間		

療育実務研修	単位数 時間数	4単位 120時間
〔教員〕： 松村 齋 実務家		
【授業概要】 特別な教育的ニーズを有する園児が通園する療育現場（ことばの教室等含む）において、療育に関する実務に近い内容で研修を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた療育の分野における実践力の育成を目的とする。この力を育成するために、（1）個人研究のテーマを明確にもつこと（2）個別の支援計画の作成と振り返り（3）事例の集積と作成（4）多様的視点の育成を明確化・意識化して研修に臨む。		
【到達目標】 1. 【知識・理解】療育現場での課題に気づき、それを分析し判断する。 2. 【思考・判断・表現】これまでの学びの集積を自覚し、学び得たことを具体的に挙げることができる。 3. 【技能】一人ひとりの子どもの教育的ニーズを理解に応じた援助や環境構成ができる。 4. 【関心・意欲・態度】社会に貢献する使命感と責任感もって、積極的に行動する。		
【成績評価と割合】 ・研修現場の評価 20% ・個人研究の追及 20% ・保育指導計画の作成と振り返り 20% ・事例の集積と作成 20% ・多様的視点の育成 20%		
【内容】		
第1週： 連携先の実務家による療育分野の実際(1) オリエンテーション、園児観察、環境整備	6時間	企業等、実地、実務家
第2週： 連携先の実務家による療育分野の実際(2) 園児観察、環境整備	6時間	企業等、実地、実務家
第3週： 連携先の実務家による療育分野の実際(3) 園児観察、環境整備	6時間	企業等、実地、実務家
第4週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(1) アセスメント プログラム立案	6時間	企業等、実地、実務家
第5週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(2) アセスメント プログラム立案	6時間	企業等、実地、実務家
第6週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(3) アセスメント プログラム立案	6時間	企業等、実地、実務家
第7週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(4) アセスメント プログラム立案	6時間	企業等、実地、実務家
第8週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(1) 感覚統合遊具等の体験	6時間	企業等、実地、実務家
第9週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(2) 感覚統合遊具等の体験	6時間	企業等、実地、実務家
第10週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(3) 感覚統合遊具等の設置	6時間	企業等、実地、実務家
第11週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(4) 感覚統合遊具等の設置	6時間	企業等、実地、実務家
第12週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(1) 教材・教具制作	6時間	企業等、実地、実務家
第13週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(2) 教材・教具制作	6時間	企業等、実地、実務家
第14週： 連携先の実務家の指導による園児に対する実地研修(3) 教材・教具制作	6時間	企業等、実地、実務家
第15週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(1) ケース1. 2	6時間	企業等、実地、実務家
第16週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(2) ケース3. 4	6時間	企業等、実地、実務家
第17週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(3) ケース5. 6	6時間	企業等、実地、実務家
第18週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(4) ケース7. 8	6時間	企業等、実地、実務家
第19週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(5) ケース9. 10	6時間	企業等、実地、実務家
第20週： 連携先の実務家と複数体制による療育の実地研修(6) ケース11. 12	6時間	企業等、実地、実務家
120時間		